

願成寺国宝白水阿弥陀堂は今を去る約八百五十六年前、永暦元年（一一六〇）三月、鎮守府將軍藤原清衡の娘であつた岩城の国守岩城太夫則道公の夫人徳姫が、茲白水に靈地を得て、一寺を建立し、無量寿院願成寺と称し、大徳の智徳上人を第二世として住持された。

姫は則道公の歿後、智徳上人に帰依し、剃髪して徳尼御前とよばれ、亡夫の冥福を祈らな
がため、この地を選んで阿弥陀堂を創立した
のである。仏堂の前には広大な浄土庭園が造営
された。

白水の地名は、徳姫の故郷奥州平泉の泉を分字して白水と名付けたと伝えられている。



●拝観時間のご案内

○4月1日より10月末日まで…AM8:30～PM4:00

○11月1日より3月末日まで…AM8:30～PM3:30

※受付は終了15分前となります。

※時間外の拝観はお断り致します。

●拝観休寺のご案内

每月第4水曜日

2月…節分会

3月…春彼岸中日

8月…お盆(12日～16日)

8月…地藏盆〈万灯会〉(24日)雨天順延

9月…秋彼岸中日

12月…寺務納~~り~~ (25日～31日)

但し12月は第2水曜日、木曜日

※山内臨時法要、暴風雨、強風、大雨、大雪、休寺

※時間外は警報機器にて管理しておりますので立入は出来ません。

●発行●

願成寺 白水阿彌陀堂

〒973-8405 いわき市内郷白水町広畑221

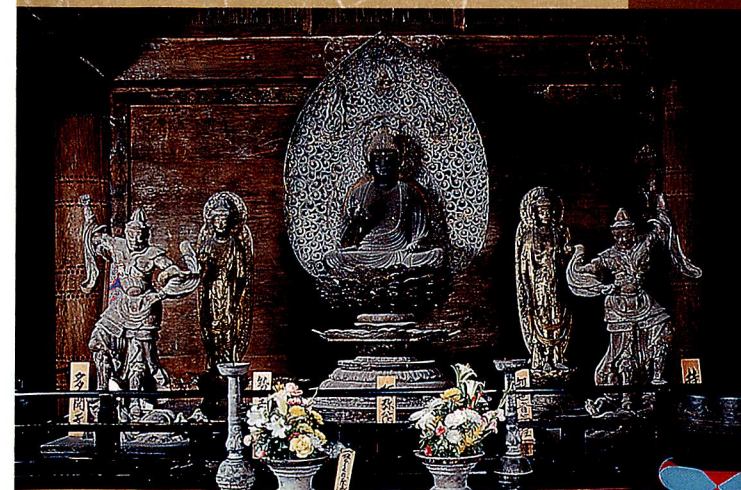
●管理寺務所●

TEL.0246-26-7008 FAX.0246-26-7722

※無断複写(コピー)禁じる

名称

●国五 〔平安時代〕 願成寺阿弥陀堂	●国重文 〔平安時代〕 本尊阿弥陀如来	●国重文 〔平安時代〕 觀世音菩薩立像	●国重文 〔平安時代〕 勢至菩薩立像	●国重文 〔平安時代〕 持国天王立像	●国重文 〔平安時代〕 多聞天王立像	●国重文 〔平安時代〕 寺伝増長天王	●国史跡 〔平安時代〕 浄土庭園	●市重文 〔山の坊〕 法華経版木	●山の坊 願成寺山の坊
--------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------	------------------------	----------------



願成寺 がんじょうじ

国宝

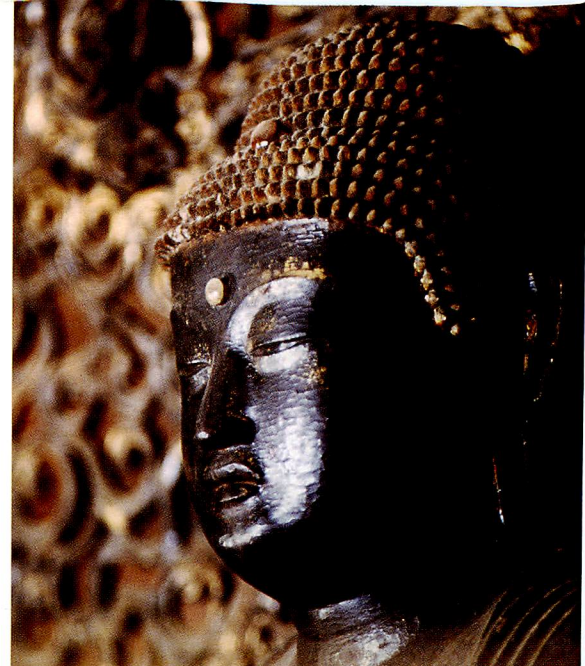
しらみずあみ
白水阿弥
たどう
陀堂



券 觀 拝

(本日 1 回限り)

No. 020189



阿弥陀三尊像、天王像

本尊阿弥陀如来は、寄木造漆箔の御像で、静かに流れる浅い衲衣の衣文、透彫の飛天光背と九重の蓮華座に座るこの時代の典型的なものである。こま目のよく整った螺髪、まことに円満具足な重厚温雅な慈眼、名工定朝様式の完成した優雅な像容が一つの類型に達したさまがよくわかる。造巧はまことに丁寧で、仏光、座のすべてが入念であり、台座の魚鱗式蓮台、華盤、反り花などに魚々子を刻んださまはこの時代の代表的な手法を示している。脇侍として勢至菩薩、観世音菩薩も同様の手法である。持国天王、多聞天王（寺伝増長天王）立像は寄木造り極彩色の跡が残っており、仏法護持の御姿である。



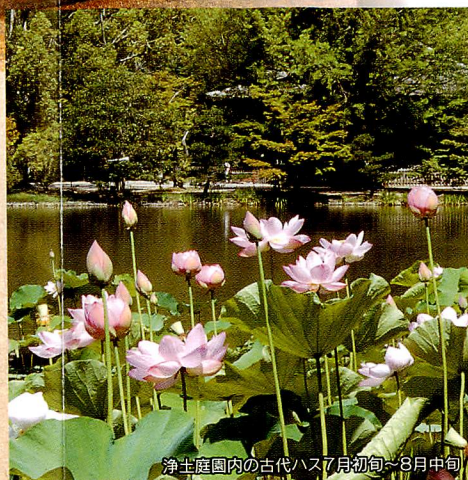
願成寺阿弥陀堂

堂は願成寺をさる二〇〇米の境外地にあり、方三間半層宝形造り柿葺で、内陣の四天柱は十二光仏が図現されていた。本尊背後の来迎壁板表裏の額縁には文様の跡があり、長押にも纏綯彩色の宝相華の文様が残っている。内陣、外陣共折り上げ小組格天井で、殊に内陣小組格天井に宝相華の文様が画かれ、その一部が残っている。堂内周囲の壁板にも全部壁画が図視されておったが、悉く剥落し、一面に僅かにその面影が残っている。



願成寺山の坊

史跡外に山の坊、当院は天正二年、（一五七四年）に開創、江戸末期まで隆盛を極めたが不慮の火災にて焼失し、現在願成寺山の坊として整備され、不動堂、地藏堂、鐘楼堂、光明殿、客殿、西院の河原庭園が再建成就を見えています。毎年八月二十四日地藏盆には万灯供養が厳修されローソクの炎で山内に極楽浄土が具現されます。



浄土庭園

浄土庭園とは、平安時代中期から阿弥陀堂などの仏堂の前に造園された園池を「浄土庭園」と言う。經典では極楽浄土に七宝の池があり八つの功德水が池に満ちて蓮華が咲きこの様な世界を具現化した庭園です。ここの庭園の特徴は、阿弥陀堂が南面し、背後に経塚山を主として山々が取り巻いており、山々を「蓮の花」にたとえて作庭された。現在の庭園は昭和四十七年から復元された。



南無阿弥陀

佛と唱へる

一声

救の御手の

あまのてを

呪筆